

受験番号

氏 名

2023 年度

サンプル問題

国 語

受験上の注意

1. 問題用紙・解答用紙には、受験番号・氏名を記入してください。
2. 解答はすべて解答用紙に記入してください。
記入の方法を誤ると得点になりません。
3. 終わりの合図とともに、解答用紙を提出してください。

芝国際中学校

一

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(設問に字数指定のある場合は、句読点や符号も一字と数えます)

以前ある中学校で講演をしたとき、男の子に「なんで勉強をしないといけないのですか」と質問されました。はじめは「学校の勉強は、論理的に筋道立てて考える役に立つ」と答えようとしたのですが、それはやめにして、代わりにこう言いました。「確かに、社会に出て学校の勉強が役に立つかと言うと、立たないと思う。そもそも、自分が論理的に筋道立てて生きているとは、とても思えないし」。

続けて「勉強しても意味がないと思う人は手を上げてください」と尋ねると、一人二人と手を挙げはじめ、最後には、ほぼ全員手を挙げたのです。私はそれを見て、「それでいいと思うよ。なんでこんなことをやっているのかわからない、と思って勉強をする。勉強とはわからないことに慣れ、わからないなりに何とかする練習をすることだと思えます」とお話ししました。これはいまでも、そんなに間違いではないと思っています。

A、毎日が試験のようなのだとすれば、百点を取っていなくても、六十点を取っていればなんとかなります。困るのは、わからないことを理由に途中で諦めてしまうことです。人生はわからないなりになんとかして、六割方できていけば、次に進めるという感じがします。

皆さんは面倒臭いなあと思いながら、試験を受けて、ときには遅刻もするかもしれないけれど学校に来ている。よくわからないことを何とかこなしている。それだけで十分にえらいことだと

思いますよ。考えてみると、勉強だけでなく部活動でも同じです。① どうやったたら上手くなるかわからなくて、先輩に聞いたり、テレビで好きな選手の動きを見て研究をしたりする。そうしてわからないなりに上手くなるうとしています。

昭和の麻雀ブームを作ったと言われる、阿佐田哲也という伝説のギャンブラーがいます。彼は真のギャンブラーの条件は、九勝六敗をキープできる人だという名言を残しています。

全戦全勝のピギナーズ^{※2}ブラックのあとには、必ず全戦全敗が待っている。よく人生の収支はゼロになるようにできていると言いますが、ギャンブルにおける素人もそんなものらしいです。阿佐田哲也さんは、プロとは全戦全勝できる人ではなく、全体における勝利の割合を少しだけ上げられる人だと言っています。この感じはよくわかります。

負けてもいいのです。憎しみや敵意は何も生まないけれど、負けて感じる悔しさがあれば、そこから何とかしようとする。これはとても大事なことです。

「宇宙飛行士に向いているのは？」

みなさんはJAXA(宇宙航空研究開発機構)をご存知でしょうか。宇宙飛行士の選抜試験の面接では、②「あなたは桃太郎か浦島太郎のどちらが好きですか」という質問が出たことがあるそうです。

桃太郎の素晴らしい点は二つあります。一つは課題設定能力です。鬼が人間から奪っていった金銀財宝を取り戻し、困った人に返すという明確な課題設定をしています。二つめは課題遂行能力

です。桃太郎は思うだけでなく実際に行動して達成します。

対して浦島太郎ですが、彼は積極的に働く人ではありません。職業は漁師ですが、物語のなかでは漁もしていないし、餌えさもルアーも持っていない。あまり釣つろうという気持ちがないですね。私はニート※3の研究をしていますが、彼は言ってみればニートのようなものです（笑）。亀かめがいじめられているところに偶然ぐうぜん出会ってしまったがために、彼の人生が大きく動き出すのであって、

③ 的に何かをやるタイプではない。

一方、桃太郎のいいところは他にもあります。彼は一人で鬼ヶ島に行くのではなく、チームを作って行きました。B、リーダーです。

私はリーダーに一番必要なものは、自分の弱さに対する自覚があることだと思っています。全て自分でできると思っている人はリーダーには向いていない。桃太郎は剣の達人ですが、もしかしたら負けるかもしれない、鬼だつて強いはずだと考えて猿さる、犬、キジを仲間にしました。桃太郎が弱さを自覚して、もし自分がやられそうになったら助けてくださいと心の底からお願ねがいするからこそ、彼らもついてくるのです。

浦島はそういうことをやりません。助けた亀に「竜宮城にご招待さそします」と誘さそわれて、後先考えずに行ってしまう。竜宮城に着いたら楽しいわけです。しかし突然、「そろそろ帰らなきゃ。お家のことも気になってきたし」と、竜宮城を離はなれます。そして地上に戻って、お土産に渡わたされた玉手箱を開けてしまふ。あまり良いところがない。

「後悔をしない資質」

以前、宇宙研究の世界的権威の村山齊ひとしさんという東大の先生とお話をしたことがあり、そこで気づくことがありました。「村山先生は宇宙研究の権威けんいで」とお話をしても、彼はとても謙遜けんそんしているのです。どうしてそんなに謙虚けんきょなのかと尋ねると「宇宙のことはわかっていないですから」と断言だんげんされました。

宇宙について証明されていることはわずかしかなくて、こういう可能性があるとしか言えないことばかりだそうです。だから村山先生は「宇宙について偉えらそうに語れるわけがない」と仰おつしやいます。宇宙研究で非常に有名な方でもこうなのです。

確かに桃太郎は、目標を持ち、それを実現する能力も、協調性や思いやりもあります。しかし宇宙は、桃太郎のような素晴らしい人でもどうなるかわからない、不確実で未知の場所なのです。どんなに聡明そうめいな人が集まって地上と宇宙で通信しても、乗組員の生命やプロジェクトの存続に関わる事態に、どう対処すればいいかわからない。

浦島太郎は成功者ではなく、さまざまな偶然ぐうぜんに人生を翻弄ほんろうされた人ですが、彼にもいいところがあります。④

。亀がいじめられているのを見れば、ダメだと言つて止めに行き、竜宮城に行くときも「どうしよう」と迷うことはなく好奇心こうきしんに従つて行動します。彼は完全な答えを持っているわけではないけれど、自分で判断しているわけです。

もう一つ、浦島は素晴らしい資質を持っています。実は、浦島太郎伝説と同じような話は世界中にあるのだそうです。どの伝承も「竜宮城でもらった玉手箱を開けたらおじいさんになってしま

「希望に」 ⑧ 「はない」

私のもう一つの研究テーマでもある「希望」についてお話しします。私は、東日本大震災（だいしんさい）がおこる五年前の二〇〇六年から岩手県の釜石市（かまいし）を訪問して希望の研究をしていました。

C 釜石市で研究をしていたか。それは、釜石市の人びとが、震災の前にも津波（つなみ）で人が亡くなったり、戦時中は艦砲射撃（かんほうしゃげき）にあって街が壊滅（かいめつ）したり、苦しいことをたくさん経験して、そのたびに立ち直って来た人たちだったからです。苦しみのなかで希望を、なくとはどういうことか、教えてもらいたいなと思っていました。

東日本大震災が起って一カ月ほど経ったころ、釜石市に行きました。何か持って行きたい気持ちもありましたが、食料も衣服も余るほどあることは聞いていて、「もしかしたら必要なものもあるかもしれないから」と知り合いから渡（わた）されたある物を持って行ったんです。釜石は「希望を持ちましょう」とはとても言えない状況でした。希望の研究をしていましたが、釜石で私ができることは、ただ会う人びとと言葉もなく握手（あくしゅ）をすることだけでした。握手をしてグッと力が返ってくるのがほっとしました。

そのとき、小学校の避難所（ひなんじょ）に東京から持っていったものを置いて帰ったのですが、それが避難民の方からすぐ喜ばれているという話を聞いたのです。私の方が驚（おどろ）いてしまいました。

何を持って行ったのか。それは卓上（たくじょう）に置けるような小さなカレンダーでした。C 喜んでくださったのでしょうか。釜石で

避難生活（ひなんせいかつ）をしている方々は、今日が何月何日もわからない状況（じきょう）でした。東京でも、今日何をしたかあやふやになる感覚があつ

たことを覚えています。そこでグッと立ち止まるために、きっとカレンダーに予定を書き込んだのではないか。今日はこれを、明日はこれをやろうと、自分で自分の希望を書き込んでいく行為のなかで、いまの立ち位置や向かっていくところを考えたのだと思います。

このことに、私は希望の意味を教えられた気がしました。

自分でカレンダーに希望を書き込んでいく人びとを見て、思い出したことがあります。震災前に、釜石市に行つて「希望って何でしょう」と聞いていた頃のことです。ずっと「そんなこと、わからん」と話をしてくださらなかった方が、あるとき、希望について一つだけ教えてくださいました。彼は言いました。「希望に

⑧ はねえな。希望を与えてくれないとか、自分には希望がないと言う人がいるけれど、そんなことは自分には考えられない。与えられた希望は、希望ではないのではないか。希望というものがあるとしたら、動いて、もがいて、ぶち当たるのが希望ではないか」。いまでもその言葉が忘れられません。

希望の研究をしてみんなに希望を与えられたらいいなどと、そんなおがましいことを考えてはいけません。希望は与えられるものではなく、自分たちの手で作っていくものだということを学んだのです。

反対に、私についてくれる希望を与えますよ、希望を与えてもらえそうだ、というのはとても怖いことかもしれないね。

「壁にぶつかったとき、どうするか」

最後にもう一つだけ。

ビートたけしやさんまを国民的スターにした、横澤彪よこざわたけしさんという面白いプロデューサーがいました。彼が吉本興業の新入社員の前で言ったことを紹介しょうかいします。

「仕事のことは現場で覚えてください。そのときに必ず大きな壁かべにぶつかるでしょう」。そしてこう続けます。「D」その壁は絶対に乗り越えられませんか」。

普通は、大きな壁にぶつかりますが頑張つて乗り越えてくださいと言いますよね。彼がなぜそう言わなかったか。壁は乗り越えられないことが、紛れも無い事実だからです。お笑いの世界は魍魎＊ちんちみりょうの世界です。学校時代に勉強ができたから、お笑いが好きだったからとってうまくいくほど甘くはない。必ず挫折します。それでは大きな壁にぶつかって乗り越えられないとき、何が大事か。横澤さんは一言だけ残しました。

「壁にぶつかったら、壁の前でちゃんとウロウロしていること。皆みなさんに期待しているのはそれだけです」

私はこの話が大好きです。

この話を高校生にして、「何を言ってるのか意味がわかりません」と言われたことがあります。ウロウロするぐらいなら戦略を考えたほうがいいと思います、と。たしかに、ウロウロしても何もないことはありません。ただ、ずっとウロウロしていると、たまたま壁の隅すみに小さな亀裂⑩を見つけて、コツコツと叩いていくうちに小さな穴になって、トンネルのようになって、そこをくぐるのが意外とあります。要領のいい人ほど、目の前の壁を登ることに早めに見切りをつけてしまって、次の壁に行くことを繰り返しています。ところが、ウロウロしていると、空からヘリ

コプターが来てロープで引き上げてくれることもあるかもしれませんが。そんなものなのです。

さきほど挫折という言葉を使いましたが、挫折と失敗は違います。失敗は事実だから変えられませんが、挫折は過去の経験が自分がどう受け止めているです。ですから考え次第で挫折は変えられます。壁の前で苦しくてもウロウロしている間に、何か希望のヒントと出会えることもある。希望は挫折をくぐり抜けた先にこそあるのです。

この話がある社会人の方にしたとき、似たような話を聞いたことがありまると言われました。その話をしたのは、秋元康あきもとやすしさんだそうです。秋元康さんは「壁にぶつかったら壁に沿ってずっと歩き続けるのが自分の人生だと決めている」と言っていたそうです。みなさんもこれからの人生のなかで、きつと大きな壁にぶつかるといでしょう。乗り越えられない壁にぶつかったときにどうするか。ウロウロするのか、壁に沿って歩くのか。どうすればいいかわからないときに、わからないなりにどうするか。人生を通じて自分なりのやり方を見つけられれば、悪くない人生だと言えるのではないのでしょうか。

（玄田有史「希望をつくる」『希望のための教科書』左右社 2018 より抜粋）

問題作成のため内容の一部を変更しています。

※1 麻雀：室内であそぶもので、四角い立体のコマを各自が複数持ち、組み合わせで勝敗を決めるもの

※2 ビギナーズラック：かけごとなどで、初心者が良い結果をおさめること

※3 ニート：職業につかず、教育や職業訓練も受けていない若者

※4 カリスマ：多くの人に憧れを持たれる人物

※5 魑魅魍魎：さまざまなげもの

問一 A D に入る適切な語を、次のア～オからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。Dは二つ欄らんがありますが、二つとも同じ語が入ります。

- ア かなり イ なぜ ウ けれども
エ 仮に オ つまりは

問二 — 線① 「どうやったら上手くなるかわからなくて、先輩に聞いたり、テレビで好きな選手の動きを見て研究をしたりする」という説明は、文中において何の例として示したものです。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア わからないことを途中であきらめる例
イ わからないがすぐにできてしまう例
ウ わからないなりに何とかする例
エ わからないことは意味がない例

問三 — 線② 「あなたは桃太郎か浦島太郎のどちらが好きですか」というJAXAの面接で聞かれる質問に、筆者はどのような回答がふさわしいと考えていますか。理由も添えて五〇字程度で説明しなさい。

問四 ③ と ⑦ に入る語として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。それぞれ別の語が入ります。

- ア 近似 イ 因果 ウ 誘導
エ 強制 オ 偶発 カ 自発

問五 ④ に入る文として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア それは、正義感にあふれ、悪を許さないという、利発的なところだ。
イ それは、わからないなりにその場その場で何とかできる点です。
ウ それは、どんなときも迷いなく的確な回答を導き出す正確さです。
エ それは、消極的ではあるが勇気を出して亀を助けた必然性です。

問六 — 線⑤ 「彼方」、— 線⑩ 「亀裂」の意味として適切なものを次からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

⑤ 「彼方」

- ア 遠く離れたところ
- イ 人気のあるところ
- ウ 低く身近なところ
- エ 高く見えるところ

⑩ 「亀裂」

- ア 穴が開いているところ
- イ ほこりがついたところ
- ウ ひびが入っているところ
- エ とりはずせるところ

問七

⑥ と ⑧ に入る語として適切なものを次からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

⑥

- ア 石の上にも三年
- イ 釣り落とした魚は大きい
- ウ 二度あることは三度ある
- エ 二兎を追うものは一兎をも得ず

⑧

- ア 糠に釘
- イ 猫に鱈節
- ウ 棚からぼたもち
- エ 待てば海路の日和あり

問八

宇宙飛行士の話と釜石市の話における共通点は何ですか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア どちらも協調して課題設定をし、行動することが大事であるということ

イ どちらも、もがいて何とかして行動することが大事であるということ

ウ どちらも希望を持ち、課題遂行に対し計画を立てることが大事であるということ

エ どちらも挫折と失敗が伴うが、過去の経験を活かすのが大事であるということ

問九

——線⑨「壁の前でちゃんとウロウロしていること」という説明には「ちゃんと」という言葉が入っています。なぜ「ちゃんと」という言葉が入っているのですか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 壁にぶつかっても解決策が見つかるかもしれないので、目の前ですぐに探せるようにその場にいるべきだから

イ 壁にぶつかっても戦略を考えて要領よく計画を立てるべきなので、希望を持ち考えるのが大事だから

ウ 壁にぶつかってもあきらめずに歩き続け、継続して行動することが聡明であるから

エ 壁にぶつかっても何もいいことはなく、過去の自分と向き合う必要があるから

問十 次の文は、もともと本文中にあったものです。もとの場所にもどすとき、戻る場所の直後の七字をぬき出して答えなさい。

実際に宇宙では、日々さまざまなトラブルや予想外の事態が起こっています。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(設問に字数指定のある場合は、句読点や符号も一字と数えます)

あらすじ

小学校の中学年の頃、僕はがき大将で毎日近所のちびっこたちを引き連れて遊び回っていた。縄張り意識が強くて、僕らは自分たちの町内をその統治下においていたつもりだった。放課後になると、裏山に作った基地(斜面に生えた大木の枝に板切れや鉄材をくくりつけて作ったほったてごやだった)に集まっては、攻めにくるかもしれない敵を想定して、僕らは石投げの訓練を積んでいたのだ。

はじめてあの新聞配達少年を見たのは、その基地を建設し終わった直後の頃のことである。見張りに立っていた弟が大声で僕を呼んだのだ。

「兄貴、なんか変なのが走りよう。どがんする」

僕は弟の指さすほうを見た。肩から新聞をぶら下げた少年(多分小学校の高学年か、中学の一年生ぐらいだと思った)が、一軒

一軒の家に新聞を放り込みながら走っているのである。新聞配達の少年の存在は知っていたのだが、こうやって意識してまじまじと見るのは初めてのことであった。彼は僕らが見守る中、背すじを伸ばしてすつと下の道を通り過ぎてしまったのである。

翌日も彼は同じ時刻にそこを通過していった。やはり肩から吊るしたたすきに新聞を山盛り入れて、彼は一軒一軒にそれを放り込んでいくのだ。僕はその姿に何か心を動かされていたのだが、

① 沢山の子分たちの前で彼を褒めるわけにもいかず、

ア

心にもない行動をとってしまうのである。

「皆、あいつは敵たい。敵のスパイに間違いないたい」

小さな子供たちは僕のいうことをすぐに信じて、同じように彼目掛けて石を投げつけはじめたのだ。新聞少年は投石に気がつき、立ち止まると僕らのほうを一瞥した。

しかし、石を避けようともせずじつと僕らのほうを睨みつけるのだった。幾つかの石が彼の足にあたったが、彼は逃げようとはしなかった。

「やめ」

それに気づいた僕はちびっこたちに石投げをやめさせた。子供たちは石を投げるのをやめ、僕の次の命令を待っていた。僕と新聞少年はそのとき初めて対峙して睨みあった。鋭い目をした強そうな男だった。僕たちが黙っているとまもなく彼は走りだすのである。

それからもときどき僕らは彼を見つけては威嚇攻撃をした。そのたびに彼は立ち止まりじつと僕らを見③すえるのだった。その目は鋭くかつて見たことのない動物的なものだった。

新聞配達という行為が悪いことではなく、イりっぱな

ことであることはあの頃の僕でもちゃんと理解はしていたつもりであった。僕だけじゃなく、弟やちびっこたちもちゃんと知っていたはずだ。なのに僕が彼に石を投げたのは、多分彼の存在が気になっていたからなのだろう。新聞を少年が配達するということが一体どういうことなのか、僕はすごく興味があったのだ。

それから少しして、僕らが社宅の門のところ④たむろして遊んでいると、彼が突然門の中へ走り込んできたのである。がちりとした身体からだをしていて、僕より五センチは背が高かった。僕は直ぐに彼と目が合い、睨み合ってしまった。そのとき、ちびっこの一人がいつもの調子で彼に向かって石を投げつけてしまったのである。石はそれほどスピードはなかったのだが、少年の額にあたってしまった。そして少年はそのときはじめて僕らに抗議こうぎをしたのである。

「何で石は投げるとや。俺おれがなんかしたとかね」

⑤ 身構みかまえるちびっこを僕は慌あわてて制した。そして少し考えてから聞き返した。

「なんばしよつとね」

僕は新聞のつまったすきを指さして聞いてみた。

「新聞配達にきまっとううが」

「そうやなか、なんで新聞ばくばりよつとか知りたかったい」

僕は彼に ⑥ 睨みつけられて怯ひるみそうだったが、ちびっこたちに示しつかないのでじつと堪こらえていたのである。

「なんでって、お金のためにきまっとううが。お金ば稼かせいで、家にいれるつたい。うちはお前らんとこみたいに裕福ゆふくやなかけんな」

「ゆうふく？」

弟が横から口を出してきた。

「ああ、うちは貧乏びんぼうやけん、長男の俺が働いてお金ば稼かせがんとならんとよ。お前らみたいに遊んでるわけにはいかんっちゃ」

彼のその言葉は僕の胸に ⑦ 響ひびいた。自分のことを貧乏といいきる彼がなぜか自分たちとは違う大人に見えたのだ。

「わるいけどな、これからは俺の配達のじゃまばせんどいてくれんね。ウ、邪魔じゃまするようだったら、こっちも生活がか

かっているけんだまっちゃおかんばい」
彼はそういうと石を投げつけたちびっこを押しおのけて新聞を配り始めるのだった。

僕はなぜかいいいようなないショックで、それから数日考え込んでしまった。僕は昔から考え込むタイプだったようだ。あのとき僕は新聞配達の少年を実は心の何処どこかで ⑧ と思う。自分を彼に投影こうえいしはじめていたのだ。

それから数日して僕は社宅の門のところ④彼を待ち伏せぶすることになる。子分たちは引き連れず、僕ひとりであった。そして夕方、いつもの時間に彼は新聞を抱かかえて走り込んできたのである。

「よう」

彼は僕を見つけると、そう声をかけてきた。

「今日はぞろぞろいないのか、子分たちは」

僕は大きく頷うなづいた。

「今日はちよつとさしで話があるつたい」

「なんね」

新聞少年は眉間まゆげんをぎゅつと引き締しめて僕の顔を ⑨ 覗のぞ

てくれていたのだが、その先輩の家が新聞の集配所をしていたのだ。高校二年の夏休みだった。

「辻、お前アルバイトやらないか。足腰を鍛えるのにもってこいの練習があるんだが。ちよっとした小遣い稼ぎにもなるしな。どうだ、夏休みの間だけでもやってみないか」

先輩はアルバイトが止めて人手不足になると、そうやっていつも柔道部の部員をかりだしていたのだ。僕は、念願の新聞配達をやれるということもあって、二つ返事でそれを引き受けたのである。

僕が受け持つ地区は自分の家の周辺で宝来町から青柳町にいたる四百軒ほどであった。夏休みの間だけの約束だったが、仕事は想像していたよりもずっと大変であった。柔道をして体を鍛えていた僕でさえ、翌日には足の筋が痛むほどだった。雨の日も風の日もそして台風の日も新聞少年は休むわけにはいかないのである。僕はたすきにいっぱいの新聞を抱えて坂の多い函館の街を噴き出す汗を拭いながら走り続けた。

新聞を一軒一軒の家に放り投げていた僕の頭のなかで、福岡のあの少年のいった言葉が蘇っていた。

「⑪」
そしてその言葉は今でも僕の心の中できえることなく反響している。

（辻仁成『新聞少年の歌』新潮文庫）
なお、本文には問題制作上、割愛した箇所があります。

問一 ア イ ウ エ に入る言葉を、次からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

- | | | | |
|---|-----|---|----|
| 1 | むしろ | 2 | もし |
| 3 | つい | 4 | やや |

問二 — 線①「沢山の子分たちの前で彼を褒めるわけにもいかず」とありますが、なぜ褒めるわけにはいけないのですか。その説明としてふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 石投げの訓練をしている時に、皆の注意をそらすような新聞少年をうとましく思ったから。
- 2 裏山に作った基地は自分たちの守るべきルールであり、自分の意見はみんなの意見であるから。
- 3 ちびっこたちという子分がいる状況で熱心な新聞少年をほめると、子分たちからの威厳を失うから。
- 4 がき大将としての自分のプライドは高く、新聞少年を認めるわけにはいかなかったから。

問三 — 線② 「彼は逃げようとはしなかった」とありますが、

彼はなぜ逃げようとしなかったのですか。その説明としてふさわしくないものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 彼は「僕」やちびっこがやっている行為を幼いと感じているから
- 2 彼は「僕」やちびっこがやる行為なんかこわくないと感じているから
- 3 彼は新聞配達をやることによって、大人の価値観を持っているから
- 4 彼は配達が忙しくて「僕」やちびっこにかまいたくてもかまえないから

問四 — 線③ 「見すえる」 — 線④ 「たむろして」の文中の意味としてふさわしいものを次からそれぞれ一つ選び、番号で答えなさい。

- ③ 見すえる
 - 1 たしかめること
 - 2 しっかりとみること
 - 3 本質をみぬくこと
 - 4 ちらつとみること
- ④ たむろして
 - 1 走り回ること
 - 2 腰をかがめすわること
 - 3 人がむれ集まること
 - 4 落ち着きなく動くこと

問五 — 線⑤ 「身構えるちびっこを僕は慌てて制した。そして

少し考えてから聞き返した」とありますが、この時の「僕」の心情説明としてふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「僕」や弟やちびっこたちは新聞配達がりっぱなことであると理解していたはずなのに、石を投げてしまったのでちびっこを止めたが、それでもやはり直接新聞少年の口から新聞配達をしている理由を聞いたかった心情。
- 2 新聞少年を敵だと思わせてしまったため、ちびっこたちは敵にたいして身構えてしまったが、まだ戦う時ではないと考えたがき大将の「僕」は、とりあえずちびっこを止めて、相手が何をしているか聞こうとした心情。
- 3 まだお互いに何も手を出していない状況の中で、ちびっこ「僕」が先制攻撃を成功させて、相手を怒らせてしまったために、「僕」がちびっこの行動を止める必要があると考えて、聞き返した心情。
- 4 ちびっこたちをがき大将として止めたが、がき大将としての行動と少年に質問したい心が「僕」の中でぶつかってしまい、少し迷ってしまっただが、結果として質問したい心が勝ってしまった心情。

問六

⑥ ⑦ ⑨ に適する語を次からそれぞれ一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 びんびんと 2 すつと 3 ぐいと
- 4 やつと 5 まじまじと

問七

⑧ に入る文を次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 軽蔑けいべつしていたのだ
- 2 侮あなどっていたのだ
- 3 尊敬していたのだ
- 4 楽観視していたのだ

問八

——線⑩「そして僕は次の日から新聞配達の少年をさけるように遊ぶことになるのである」とありますが、さける理由は何ですか。その説明としてふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 できなくなってしまう新聞配達に興味を持ちつつも、アルバイトをさせてくれない両親にも憤りを感じ、勝負に負けたような気持ちになるので、自分を引き連れた状態で新聞配達の少年と顔を合わせるのは気まずいから。
- 2 新聞配達の少年に示した気持ちにいつわりはなく、新聞配達をするつもりでいたのに、配達所のボスにももう会うことはできなくなり、アルバイトをさせてくれない両親に

も憤りを感じ、気まずくて顔をあわせられないから。

3 自分の統括下にあるはずの町内で新聞配達の少年と睨みあい、もめないように出した案を、体面を気にした両親に止められてしまい、新聞配達の少年と交わした約束が守れずに気まずくて顔をあわせられないから。

4 新聞配達をやることをいい加減な気持ちで言ったわけはなかったが、体面を気にした両親に止められてしまい、新聞配達の少年に示した気持ちとは裏腹な状況になってしまったので、気まずくて顔をあわせられないから。

5 自分たちの統治下である町内と、新聞配達の少年の配達区域が重なっていて、一度言ったことが守れなかった自分が恥ずかしく、また睨みあいになるため、新聞配達の少年と顔を合わせるのは気まずいから。

問九

⑪ に入る台詞を本文から三十字でぬき出しなさい。

問十 次の文は、もともと本文中にあったものです。もとの場所にもどすとき、戻る場所の直後の五字をぬき出して答えなさい。

そう、僕は彼目掛けて石を投げつけたのだ。

三

次の①～⑤の作品の作者をあとからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 舞姫
- ② 伊豆の踊子おどりこ
- ③ 人間失格
- ④ 吾輩は猫であるわがはいはかい
- ⑤ 破壊はかい

- ア 島崎藤村とうそん
- イ 川端康成かわばたやすなり
- ウ 森鷗外おうがい
- エ 太宰治だざい
- オ 夏目漱石せうせき

四

次の①～⑤の文の□にあてはまる最も適当なものを、あとからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 彼は正解して□としている。
- ② 9月なのにまだ□する。
- ③ 父の転勤で土地を□とする。
- ④ □と水が湧き出る。
- ⑤ 運動会の次の日に、□が痛む。

- ア たんたん
- イ なみなみ
- ウ むしむし
- エ こんこん
- オ さんさん
- カ ふしぶし
- キ ぴんぴん
- ク むんむん
- ケ とくどく
- コ てんてん

五

次の——線をつけたカタカナを漢字になおしなさい。

- ① キヨウリに帰る。
- ② 安全ソウチを外す。
- ③ ニユウジを抱き上げる。
- ④ オウボウな振る舞い。
- ⑤ この果物はサンミが強い。
- ⑥ カンレイに従う。
- ⑦ 夏物のイフクをしまう。
- ⑧ 祖父のコキを祝う。
- ⑨ 箱根には昔、セキシヨがあった。
- ⑩ ジュクレンの技をみせる。

